



楽しい冬休み、希望あふれる

新年のスタートを 新年に寄せて

令和5年度の2学期が今日で終わります。新型コロナウイルスの影響がほぼなくなり、学校行事やいろいろな教育活動の多くが以前のような形式で実施できるようになってきました。久しぶりの行事で、準備や練習に悪戦苦闘しながらも、子ども達はいつも元気で毎日充実した学校生活を過ごすことができました。また、浪漫フェスタや見学旅行など、多くの子どもたちの活躍を学校内外で見ることができました。これもひとえに保護者の皆様、地域の方々の温かいご支援とご協力のおかげと深く感謝申し上げます。

新たな目標を

明日からは17日間の冬休みを迎えます。子ども達には2学期の学習や生活面をしっかり振り返り、新年を迎えるにあたっては、新たな目標を立ててほしいと思います。そして、家庭や地域では年末年始の様々な行事や行事などがあると思います。また、お正月になれば親族が集まったりと、外出したりする機会も多いと思います。家庭では、家



2 「元気に過ごす」
自分で学習や運動、家族の一員としての手伝いなど1日のスケジュールを立て、早起きに努める。食べ過ぎや夜更かしに注意。また、この

2つのお願い

明日からの冬休みを充実したものとするために、終業式では、普段できない「家の手伝い」をこの期間だけでもがんばって、家族の一員としての役割を担うようにする事。その他に、次の2つのことをお願いしました。
1 「命を大切にすること」
年末年始の不要不急の外出を避ける。出かけるときは、3密を避けマスクを着けるなど感染防止に努め、交通事故にあわないように気をつける。

時期にしかできないことに挑戦する。

新学期に向けて

3学期の始業式は1月9日(火)です。新年は、子どもたちの「おはようございます」「おめでとうございませう」の元気な声で迎えたいと思います。みなさまも、よいお年をお迎えください。

働くというこの意味は

「お手伝い体験」の推奨

私が小学生のとき、長期休業中の主な宿題は、夏休み・冬休みの友と「お手伝い」でした。当時の事を思い出すと、私の主なお手伝いは、食事の後片付け、洗濯物干し、風呂場の掃除でした。特に風呂場の掃除は長期休業中だけに追加されるお手伝いです。さらに、父の実家に帰省する時、薪を用いた風呂焚きも加わります。冬は暖かくていいのですが、夏は汗だくになっ

て結構きつかったのを覚えています。そんなとき、祖父から聞いた言葉を今でも覚えています。「ありがと。おかげで、よい加減のお風呂で、疲れもたいそうとれたよ」と。もう一つ、心に残っている言葉があります。「働くという字は、動くという字に似ているけれど、人のために動く」と読んでほしいんじゃないか。だから、あなたのお手伝いには、いつも感謝している

人権作品最優秀賞受賞 ～2年 竹尾 春乃佑さん～

五福小学校2年 たけお はるのすけ
リレーのれんしゅうの時
ぼくはこけてしまった
ぼくのせいで
チームが負けると思った
その時、三年生のおにいちゃんが
「大じょうぶ。」
おれが本気を出して
おいこしてやるから、大じょうぶだよ。」
と言ってくれた
その一言にホッとした
こんなやさしい三年生に
ぼくもなりたいたい

本校2年生の竹尾春乃佑さんの書いた詩が、今年度の熊本市人権啓発作品の最優秀賞に選ばれました。熊本市内の学校、ほとんどの学級に掲示される人権カレンダーの来年度版に掲載されます。心温まるいい詩ですね。



「なんだよ」という母の言葉です。当時、働く

事の意味や大切さを深く理解する事はできませんでしたが、そんな声に、家族のために自分が何かの役にたっていることを実感しました。本来、子どもも誰かのために役に立ちたいという思いを常に抱いているのです。だからこそ、家族の一員である子どもたちに、これまで以上に、お手伝いを通して家庭生

体験したことは身につく

「聞いたことは忘れる、見たことは覚える、やったことはわかる」と言われます。これは、中国の古典『荀子』からの出典ですが、体験活動の大切さ、また実践できる力を養うことの大切さをよく言い表していると思います。

体験には様々なものがあります。2学期は見学旅行や音楽会などの大きな行事もたくさんありました。また、学校生活の毎日にも新たな体験活動があります。学習活動、休み時間に友達と遊ぶこと、給食の準備をして仲良く食べる。掃除の時間に教室や学校の中をきれいにすること。まさに毎日が体験活動であり、その中で人間として必要なことを学んで成長しています。学んだことを知識として蓄えることが目的ではありません。今求められている力は、学んだことをもとに、自分で考え、創造し、実践していく力です。実践の段階では試行錯誤を繰り返して、失敗することも多いでしょう。逆に失敗の数だけまた成長していくのかもしれない。



は、人とかかわりを大切にする。一人ではできないことも力を合わせればできることがあります。力を合わせてできたことは何よりの宝となります。本校で取り組んでいる「対話」と「協働的な学習」のねらいのひとつでもあります。

活への積極的な参画者になってほしい願いと期待を、そして家族のために働いてくれたことへの感謝の思いを伝えてはどうでしょうか。きっと子どもたちは、人のために働くことのできることを実感できることなのでしょう。あわせて、子どもたちの自己有用感が高まっていくことでしょうか。子どもたちにもっと甘えてはどうでしょうか。もっと子どもたちを頼りにしてよいのではないのでしょうか。五福小の子どもたちは、きっと応えてくれることではないでしょうか。いや応えてくれるはずですよ。

